



新しい冠除去用ツール「パワークラウンリムーバー」を用いて

兵庫県神戸市・清水歯科医院 清水孝治

冠除去。それは、歯科治療において避けては通れない処置である。また、近年ではジルコニアのようなたいへん硬い歯冠修復材料が登場し、その撤去には従来の方法では時間と労力、あるいは切削のためのバーをいたずらに浪費しなければならない。

そんな中、これまでの概念にはなかった冠除去用ツールのパワークラウンリムーバーが現れた。

一番大きな特徴は、バーによる冠へのスリットの付与が必要ないということである。臼歯部では咬合面に、前歯部では切端あるいはそのやや舌・口蓋側に小さな孔を開けるだけで、あとはこのパワークラウンリムーバーをその孔と冠のマージンに合わせて、ハンドル部を握り締めると簡単に、しかも安全に素早くクラウンを撤去出来るという優れたものである。しかしながら、これまでのリムーバーとは異なる為、若干の要領がある。といっても、大したことはない。実に簡単なことなのだ、ご参考にしていただければ幸いである。

まず、本リムーバーは左右1対になっている。歯の頬舌的な豊隆を考えると、唇・頬側から把持する方が外しやすい。たいていが一発で外せるが、希に舌・口蓋側からのアプローチも必要な場合がある。また、どちらか一方からのアプローチだけで外れにくい場合、2つのリムーバーを交互に使用することで、ほとんどのケースで適応できる。

煩雑に思えるかもしれないが、冠にスリットを入れ、さらにこれを開くような従来の撤去の手に比べると至極簡単である。また、冠を変形させることなく撤去出来るので、その冠を仮冠として使用できるのも大きなメリットと言える。

最初に行う、冠の咬合面のほぼ中央への穿孔であるが、この時大事なことは、孔が完全に冠を貫通して、そこに挿入するリムーバーの先端が冠に触れない程度の十分な大きさになっていることである。また、もう一方のリムーバーの先端が冠のマージンに確実に引っかかるということも大事である。もし、マージンに引っかけることができない場合には、冠の辺縁に溝を作ったほうが良いこともある。リムーバーで冠を把持できることが確認できれば、あとはハンドル部をギュッと握るだけである。ただ、冠が外れる時には一気にハンドルが閉まるので、ハンドルの間に指を入れず握るようにしていただきたい。強い力で、冠は一気に外れるが、患者は安全である。外れた冠も必ずリムーバーの中に回収されるので、誤飲・誤嚥の心配はない。

最初、その単純な形状からは、この器具はやや高価に思えたが、従来の冠の除去にかかる時間や労力、バーの消耗等を考えたとき、そのコストパフォーマンスには満足できるものであったと感じている。



図1. 除去予定の冠。



図2. まず、冠の咬合面ほぼ中央を穿孔する。



図3. 孔は、完全に冠を貫通し、さらにリムーバー先端が冠に触れない十分な大きさであることが大事である。(上図参照)



図4. リムーバー先端の一方を咬合面の孔に、もう一方をマージンに合わせる。



図5. ハンドル間に指を入れず、握るだけで強い力が作用し、冠を容易に除去することができる。また、冠はリムーバーが把持しており、誤飲等の心配もない。



図6. 同様の作業で、簡単に2本の冠を除去。冠のダメージも小さく、仮冠として使用できた。